

KJQ.PAPER

〈心の基礎〉リサーチ

〈心の基礎〉教育を学ぶ会メンバー

会長 菅野 純 綿井雅康 加藤陽子 藤井 靖 桂川泰典 中村 有

第3号

2014 February

発行人 〈心の基礎〉教育を学ぶ会 事務局長 萩地一夫

事務局 株式会社実務教育出版 ☎163-8671 東京都新宿区新宿1-1-12 TEL 03-3355-0921 kjq@jitsumu.co.jp

研究会レポート

〈心の基礎〉教育を学ぶ会 第2回研究会

～『KJQマトリックス』を活用し、考える 《前編》中学校のケースをもとに～

2013年8月23日、実務教育出版セミナールームにて「〈心の基礎〉教育を学ぶ会 第2回研究会」を開催しました。参加された小・中・高等学校の先生約30名とともに、〈心の基礎〉について学びました。実際のケースをもとに、『KJQマトリックス』をどう読み解くか、その結果を活用してクラスや子どもをどのように理解、指導していくかについて学んだ「ケース検討会」の様子を、2回に分けて報告します。



プログラム

司会・進行／十文字学園女子大学教授 綿井雅康

13:00～13:50 (50分)

●基調講演 〈心の基礎〉教育のためのKJQ活用について
〈心の基礎〉教育を学ぶ会会長 早稲田大学教授 菅野純

14:00～16:45 (165分)

●ケース検討会

14:00～15:35 (95分) ●第1部 中学校

[ケース報告者] 東京都私立中学校養護教諭 猪又由加
[ケース検討者] 十文字学園女子大学准教授 加藤陽子
岡山大学専任講師 桂川泰典

15:45～16:45 (60分) ●第2部 高等学校

[ケース報告者] 群馬県立安中総合学園高等学校教諭 吉田真弓
[ケース検討者] 加藤陽子
早稲田大学助教 藤井靖

16:45～17:30 (45分)

●発展講演 生徒の心をみる眼差し、ともに歩む姿
菅野純

「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」は、『KJQマトリックス』の開発者と学校の現場にいらっしゃる先生方との研究会です。子どもたちが学校生活の中で伸び伸びと学習し、人間関係を築きあげ、社会性を確立するための根元となる〈心の基礎〉を共に学び合うことを目的とし、継続的な研究会、会報の発行を行っています。志のある方であれば、どなたでも参加可能です。

「ケース検討会」の第1部では、中学校のクラスケースと個人ケースについての報告をもとに、ケース検討者から『KJQマトリックス』の着目点、データを活用した指導についての考察が行われました。

ケース報告者

東京都私立中学校養護教諭 猪又由加先生

ケース検討者

十文字学園女子大学准教授 加藤陽子先生
岡山大学専任講師 桂川泰典先生

1 クラスケース

①猪又先生のケース報告

【クラスのようす】

中学1年生、女子約30名からなる、大学進学をめざすクラスです。クラスの半数ほどの生徒が、小学校時代にいじめなど嫌な経験をしていました。

まじめでおとなしい子が多い反面、親や教員に言われるがままやや向上心にかける傾向が見られます。成績は上位者と下位者の差が大きく、またほかのクラスは欠席がほぼゼロなのに対して、欠席・遅刻・早退をする子が目立ち始めている状況です。また、保健室利用者が多いのも特徴です。



1人の目立つ生徒に周りが振り回された時期もありました。その後、担任が間にに入ったことで落ち着きは見られているものの、今後が心配です。また、物がなくなる出来事も何回か起きています。意欲タイプ群の子に臨床尺度に該当している子が多いのも気になります。

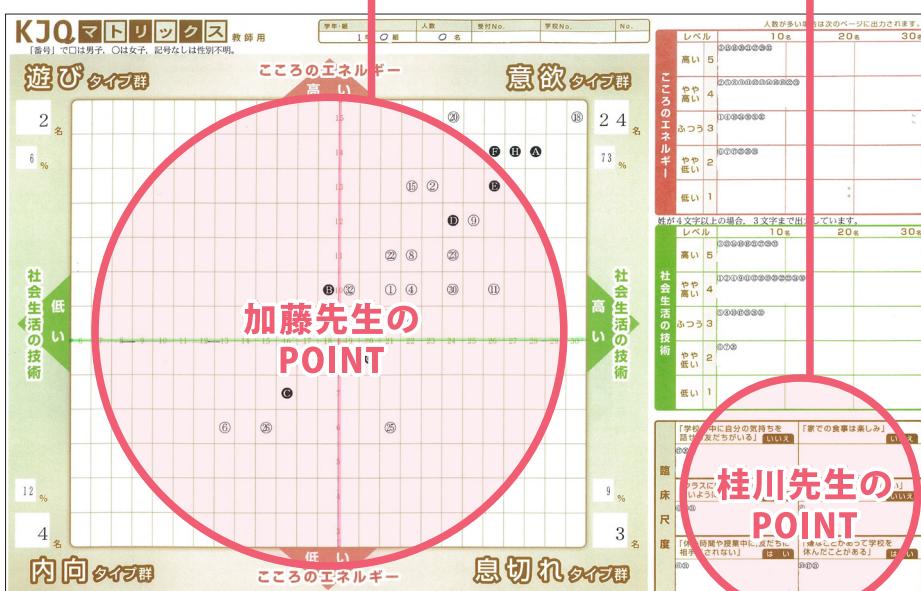
【クラスの問題点】

休みがちな生徒や保健室を利用する生徒が多く、意欲に欠ける生徒も多く見られることから、2学期以降のクラスの動向が心配です。7月に行った『KJQマトリックス』では、意欲タイプ群の生徒が多い(73%)という結果を得られましたが、2学期以降、意欲タイプ群の生徒のエネルギーが落ちていかないかも心配です。

〈クラスのマトリックスシート〉

生徒の位置を把握し、集団で考えよう！

「臨床尺度」の有無をチェックしよう！



○は女子を、□は男子を、○や□の中の数字は出席番号を表す。

●は複数の児童・生徒が同じ位置にあることを示す。

「マトリックスシート」
活用のポイント

その1

学級の傾向をとらえる！

どのタイプ群が多いか、偏りはあるか、男女差など、マトリックスの形から、全体の傾向をとらえることが大切です。

その2

「臨床尺度」に注目！

特に注意が必要な児童・生徒や、どの子から指導すべきなどの手がかりを得ることができます。

②桂川先生のケース検討

マトリックスシートからクラス全体を見ると、意欲タイプ群が多く、落ち着いたクラスであると思われます。

次に臨床尺度を見ていきます。意欲タイプ群でも臨床尺度に該当している子がいることがわかり、同じ意欲タイプ群内でも、個々の気持ちにはギャップがあることがわかります。

臨床尺度は、該当していないところにも注目すると支援の糸口がつかめます。たとえば、このクラスは「家の食事は楽しみ」に「いいえ」と回答した子ではなく、そこから家庭との連携を生かせないかという方針が立ちます。

私が特に強調したい1点目は、「KJQを使った強みを生かした支援」です。このクラスは「社会生活の技術」が安定している子が多いので、その強みを生かしたいですね。友だちへの気づかいができる子たちなので、友だちにしてもう一度うれしかったことを発表・掲示するといった取り組みはどうでしょうか。友だちや先生が自分のことを見ててくれる、周囲から大切にされていると思える経験を増やし、エネルギーを補充していくとよいでしょう。

2点目は「子どもにつながりやすいチャンネルを使った指導」です。たとえば、保護者会で「子どもたちの『こころのエネルギー』を増やしたい」という教員の指導への思いを伝え、家庭との連携をていねいに構築していきます。中1の女の子は家庭からの影響を受けることも多く、特に家庭との結びつきが強いこのクラスの場合、ここが崩れないようにしてすることでクラスの安定感が増すことが期待できます。

＼「マトリックスシート」の活用法／

マトリックスシートは、縦軸は「こころのエネルギー」、横軸は「社会生活の技術」からなり、それぞれの中央値で4分割したマトリックス上に個々の生徒がプロットされています。

4分割されたマトリックス空間は、①意欲タイプ群、②遊びタイプ群、③息切れタイプ群、④内向タイプ群と名づけられています。シートからは、クラスの児童・生徒の人間関係、心的背景などを把握することができます。

③加藤先生のケース検討

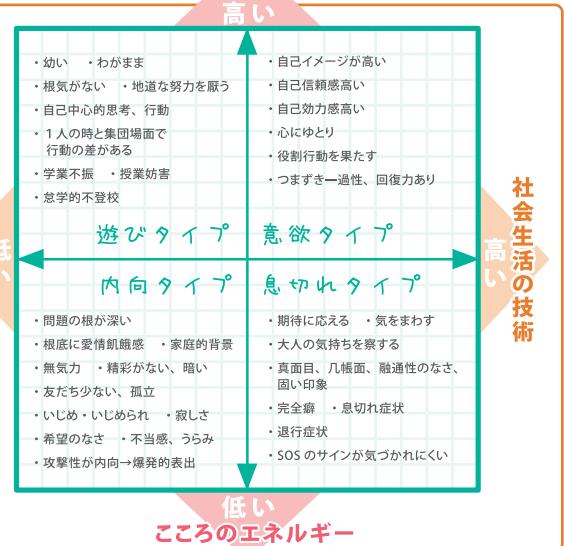
桂川先生の検討に1つ「集団」という視点を加えたいと思います。

意欲タイプ群を見ると、マトリックスの上方の子と下方の子がいて、散らばりが気になりました。桂川先生のお話にもありましたが、下の方にいてギャップやしさを感じている子もいるのではないかと思います。

内向タイプ群にいる子には個別の指導が必要です。しかし、猪又先生がご心配されているように、ほかの群にも心配な子がいると対応に迷いますよね。そういう場合には、すべてを自分1人の力で乗り切ろうとするのではなく、養護の先生やスクールカウンセラーなど、いろいろな先生方の力もお借りして、要注意の子たちへの早めの対処をしていくことと、同時に、クラス全体への目配りをすることが大切だと思います。集団の力を生かして、クラスやグループからエネルギーを補充するといった視点です。

教師が子どもにエネルギーを補充するとき、教師対子どもという構図ではなく、一人ひとりの子どもに向かっていいくとも大切です。少しずつでもよいから、個々にほめる。そしてほめる回数を増やすことで、ほめの総量を増やすのです。また、明確に、具体的にほめていくことも大切です。このクラスには「社会生活の技術」が高い子が多いので、頑張っていることをねぎらうようなほめ方が有効でしょう。

こころのエネルギー



2 個人ケース

①猪又先生のケース報告

個人ケースで取り上げるのはAさんです。ひとり親家庭で、母（会社員、30代）と姉（高校生）の3人暮らしです。

Aさんの話によると、朝5時起床、20時～21時就寝。母親の帰宅は20時以降ということで、あまり母親と話ができないいないようです。夕食はAさんが作り、朝と昼は母親が前の晩に作ったものを食べているとのことですが、6月中旬から早く登校して勉強したいというAさんの希望により、コンビニエンスストアで朝と昼を買うようになったとのこと。すべての食事が家族でとれていません。

母親は仕事が忙しくて子どもに手が回らないのかなと思っていましたが、役員を積極的に引き受けてくださったそうです。しかし1学期の懇談会は欠席されていました。

Aさんは、外部でスポーツを習っています。

学校生活に関してですが、頭が良く、回転も速い子で、成績はクラスで上位です。授業中も本当に真面目に話を聞き、提出物も完璧に提出するということです。一方、人の目をとても気にする子で、授業中も拳動不審で目が泳いでいるような印象を受けることもあると授業担当も言っていました。

保健室の利用回数は学年の中で5位に入り、お腹が痛い、頭が痛いなど、同じ日に何度も来ることもあるそうです。

部活動は文化部に所属しています。

友人関係は3人友だちがあり、一応良好だということです。

先ほどクラスケースで挙げたように、物がなくなる出来事が続きました。最初はAさんからも「自分の物がなくなつた」と報告があったのですが、担任と学年主任がAさんと話すうちに、「実はなくなつていなかつた」と語り、虚偽の報告をしたようです。担任と学年主任は「なぜ嘘をついたのかがわからない。物がなくなった近くには必ずAさんがいたので、もしかしたら疑われないように虚偽の報告をしたのだろうか?」と言っていました。教員全体がAさんは心に闇を抱えているのではないかと感じています。

Aさんは意欲タイプ群に位置していますが、「こころのエネルギー」があまり高くななく、ほかの群に移行しやすい位置にいます。今後、意欲面が下がり、勉強面や人間関係でも落ち込んでいかないかを心配しており、エネルギーや意欲を維持するにはどうすればいいのかということ、母親や姉との関係があまり見えてこないため、家庭とどのように関わっていけばいいのかについてお聞きしたいと思います。

Aさんの教師用シート

KJQ マトリックス 図 教師用																																																												
年学年・組		名前		性別																																																								
1年	○組	○名	受付No.	学校No.																																																								
(生徒のタイプ) ★ 基本タイプ 遊びタイプ 内向タイプ																																																												
<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>1年</td><td>安心感</td><td>ふつう</td><td>高</td><td></td></tr> <tr><td>C</td><td>1年</td><td>楽しい体験</td><td>低</td><td>ふつう</td></tr> <tr><td>D</td><td>1年</td><td>求められる体験</td><td>い</td><td>ふつう</td></tr> <tr><td>E</td><td>1年</td><td>のんびりの工夫</td><td>い</td><td>い</td></tr> <tr><td>F</td><td>1年</td><td>自分の気持ちを伝える技術</td><td>ふつう</td><td>高</td></tr> <tr><td>G</td><td>1年</td><td>自分をコントロールする技術</td><td>低</td><td>ふつう</td></tr> <tr><td>H</td><td>1年</td><td>状況を正しく理解する技術</td><td>い</td><td>ふつう</td></tr> <tr><td>I</td><td>1年</td><td>問題を解決する技術</td><td>い</td><td>うつう</td></tr> <tr><td>J</td><td>1年</td><td>自分をよくやしていく技術</td><td>い</td><td>うつう</td></tr> <tr><td>K</td><td>1年</td><td>人に思いやりの技術</td><td>い</td><td>うつう</td></tr> </table>						1	2	3	4	5	1年	安心感	ふつう	高		C	1年	楽しい体験	低	ふつう	D	1年	求められる体験	い	ふつう	E	1年	のんびりの工夫	い	い	F	1年	自分の気持ちを伝える技術	ふつう	高	G	1年	自分をコントロールする技術	低	ふつう	H	1年	状況を正しく理解する技術	い	ふつう	I	1年	問題を解決する技術	い	うつう	J	1年	自分をよくやしていく技術	い	うつう	K	1年	人に思いやりの技術	い	うつう
1	2	3	4	5																																																								
1年	安心感	ふつう	高																																																									
C	1年	楽しい体験	低	ふつう																																																								
D	1年	求められる体験	い	ふつう																																																								
E	1年	のんびりの工夫	い	い																																																								
F	1年	自分の気持ちを伝える技術	ふつう	高																																																								
G	1年	自分をコントロールする技術	低	ふつう																																																								
H	1年	状況を正しく理解する技術	い	ふつう																																																								
I	1年	問題を解決する技術	い	うつう																																																								
J	1年	自分をよくやしていく技術	い	うつう																																																								
K	1年	人に思いやりの技術	い	うつう																																																								
臨床尺度 (※は選択肢)																																																												
<table border="1"> <tr><td>1</td><td>「学校の中での自分の気持ちを伝える友達がいる」 友達の気持ち = はい</td><td>注意事項</td></tr> <tr><td>M</td><td>「家の食事は美味しい」 家の食事 = はい</td><td>注意事項</td></tr> <tr><td>N</td><td>「クラスで自分が自分の意見を述べるのに恥ずかしい」 自分の意見 = いいえ</td><td>注意事項</td></tr> <tr><td>O</td><td>「手の甲は、本当に手に手にならない」 手の甲 = いいえ</td><td>注意事項</td></tr> <tr><td>P</td><td>「休み時間は、本当に手に手にならない」 休み時間 = いいえ</td><td>注意事項</td></tr> <tr><td>Q</td><td>「自分の意見 = いいえ」 自分の意見 = いいえ</td><td>注意事項</td></tr> <tr><td>R</td><td>「誰なごこちがあっても学校で何んどがいる」 生徒の意見 = いいえ</td><td>注意事項</td></tr> </table>						1	「学校の中での自分の気持ちを伝える友達がいる」 友達の気持ち = はい	注意事項	M	「家の食事は美味しい」 家の食事 = はい	注意事項	N	「クラスで自分が自分の意見を述べるのに恥ずかしい」 自分の意見 = いいえ	注意事項	O	「手の甲は、本当に手に手にならない」 手の甲 = いいえ	注意事項	P	「休み時間は、本当に手に手にならない」 休み時間 = いいえ	注意事項	Q	「自分の意見 = いいえ」 自分の意見 = いいえ	注意事項	R	「誰なごこちがあっても学校で何んどがいる」 生徒の意見 = いいえ	注意事項																																		
1	「学校の中での自分の気持ちを伝える友達がいる」 友達の気持ち = はい	注意事項																																																										
M	「家の食事は美味しい」 家の食事 = はい	注意事項																																																										
N	「クラスで自分が自分の意見を述べるのに恥ずかしい」 自分の意見 = いいえ	注意事項																																																										
O	「手の甲は、本当に手に手にならない」 手の甲 = いいえ	注意事項																																																										
P	「休み時間は、本当に手に手にならない」 休み時間 = いいえ	注意事項																																																										
Q	「自分の意見 = いいえ」 自分の意見 = いいえ	注意事項																																																										
R	「誰なごこちがあっても学校で何んどがいる」 生徒の意見 = いいえ	注意事項																																																										
<small>①家族に自分の考えをあまりに話せます。 ②積極的に友人に向けようとします。 ③目標の達成に向けて努力しています。 ④友人と自然に接する技能を備えています。 ⑤友人関係が良好で心の安定に寄与しています。</small>																																																												



Aさんの
マトリクス上の位置

「回答状況シート」から、領域ごとの傾向が読み取れる。強み、弱み、得意・不得点を把握して、指導に生かそう!

Aさんの回答状況

KJQ マトリック図 回答状況 教師用														
1. KJQの57の質問項目は、①学校での先生との関係(先生)、②学校での友だちとの関係(友だち)、③家族との関係(家族)、④自己の内向性(内向)、⑤自己の外向性(外向)、⑥社会的行動(社会)、⑦自己の自己実現度(自己実現)、⑧自己の自己実現度(自己実現)の8つの分野から構成されています。														
このシートでは、今、どこが最も優れているのか、どこが最も弱っているのか、などを分野ごとに検討することができます。														
質問に答えて「はい」を1、「いいえ」を2と回答→「2」、「いいえ」を3、「いいえ」を4と回答→「3」、「いいえ」を5と回答→「4」と表示しています。回答方法が不適切な場合は「-」と表示しています。														
3. 質問が否定的な内容(遮蔽項目)の場合、質問文の最後に(★)がついています。														
4. 「番号」で□は男子、○は女子、記符なしは性別不明です。														
人番	名前	性別	先生	友だち	家族	社会	居場所	未来	自 己	1	2	3	4	5
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
48	49	50	51	52	53	54	55	56	57					

POINT

学年・組	1年	○組	○名	受付No.	学校No.	No.

②桂川先生のケース検討

Aさんは意欲タイプ群にいながら問題行動を起こす。このギャップが先生方の感じる理解しづらさ =「心の闇」にあたるのかなと思います。「心の闇」というと制御できない攻撃性や自虐性など負の感情をイメージしがちですが、多くの場合はそうではなく、子どもが自分自身を理解できていない、あるいは何となく理解しているけどうまく表現できていない状態と考えるほうが指導につながりやすくなります。

Aさんの教師用シートを見てみると、「こころのエネルギー」や「社会生活の技術」の段階点は平均的な数値ですので、回答状況シートを見てみます。回答状況シートには2つの読み方があると私は考えています。1つは、Aさんが目の前にいる感覚で、擬似面談のように理解していく読み方です。

もう1つが、「先生」や「友だち」など、質問を領域ごとのバラツキ（個人内差）から理解していく読み方です。Aさんの結果から私が計算した全体の平均値1.84と各領域の平均値を比べると、「先生」と「未来」の領域が1.84より高く、あまりよくありません。つまりAさんは、学校での居場所はあるが、先生には否定的である。未来への希望がもてず、その場しのぎの振る舞い方をしている。その場しのぎはプラスに解釈すると人や環境に適応できることですが、Aさんの場合は今の環境や友だちに合わせるために精一杯で未来の自分を想像するところまでエネルギーが回せていない状態だと思います。これは「心の闇」という印象とも合致します。

そこで、Aさんの周りの子に合わせる力を認めながら、「こころのエネルギー」の中の「認められる体験」が伸びるように指導します。たとえば、Aさんが課外活動として習っているスポーツについてクラスで紹介していくなど、子どもが学外で得た資源を、クラスへつなげることを意識して指導するとよいでしょう。



③加藤先生のケース検討

教師用シートからは特に問題は感じられないと思いますので、回答状況シートを中心に見ていきたいと思います。

自己に関する質問の「部活や行事など、目標をもって打ち込めるものがある」や「難しい目標を達成して満足したことがある」に「はい」と回答していることから、Aさんはすごく頑張り屋で、目標志向的だと理解でき、ここはAさんの〈ほめポイント〉だと思います。

ここで再度マトリックスシートを見ると、Aさんは意欲タイプ群の下の方にいます。目標志向的な傾向から言えば上位でもいいのに下の方にいる。この状況に、Aさんは納得しているのでしょうか。本人はもっと頑張れている位置にいるつもりかもしれません。桂川先生のお話に「自分を理解できていない」とありましたが、シートからは思ったように振る舞えていなかったり、自分の中で違和感を覚える部分があり、つらい状況にあるのではないかと推測できます。

また、回答状況シートで、家族との関係についての質問に対してもおおむね良好な回答なのに、猪又先生のご報告で家族の姿が見えないというのも気になります。Aさんはそこも技術でカバーしていると考えられ、「こころのエネルギー」を注ぐことを優先して対応したいところです。

私も、Aさんには認められる体験、ほめられる体験が必要だと思います。そのため個人の結果を保護者面談で伝えるとよいと思います。Aさんは頑張る子なのでほめどころもたくさんありますし、子どもをほめられて喜ばない親はいません。先生がAさんをほめることでお母さんがエネルギーを受け、お母さんがエネルギーを受けることでAさんに伝わるという流れができるとよいと思います。もしも家庭があまり協力的ではない場合は、頭を切り換え、学校がエネルギー充足の主体となり、複数の教員でフォローしながらAさんにエネルギーを注いでいくことが必要でしょう。



ケース検討会を終えての感想を猪又先生にお聞きしました

まさかケース報告者になるとは。でも、ケース資料を作成していくうち、そのクラス・個人の問題点や今後の課題等が明確化し、自分にとって貴重な経験となりました。実際、先生方に分析して頂き、ほめポイントなど生徒対応へのヒントをたくさん伺うことができ、すっかり私のこころのエネルギーが満たされました。次は、生徒のこころを満たしていきたいです。



課題解決に活用! 『KJQマトリックス』～中学校編～

前号に引き続き、菅野純先生と加藤陽子先生による対談をお届けします。

第2回目は、学校カウンセリングやスクールカウンセラーという第三者的な視点から見えてきた
“中学校の今”と「KJQの活用」について論じていただきます。

『KJQ マトリックス』で トータルな子ども像をつかむ

菅野：小学校に続き、中学校の問題を考えていきましょう。私が気になっているのが「格差」の問題です。たとえば、塾に通って次の進路をめざしている子、部活に打ち込んでいる子がいる一方、生活が大変で先が見えない子、食生活など基本的な生活習慣が確立していない子、家庭に問題を抱える子など、未来が思い描けないような環境におかれている子もいて、子どもたちの格差の広がりを感じています。

加藤：私も同感です。菅野先生は「思春期はこれまでの総決算」とおっしゃっていますが、私は、思春期は子どもが成長の過程で何を身に付けてきたか、どんな経験をしてきたかという「貯金」が試される時期だと考えています。貯金が少ないと希望がもてず、頑張れないですが、貯金があればつらい環境でも踏ん張れると思うんです。

中学生は小学生に比べて人間関係も広がり、情報量も格段に増えるので、さまざまな人からいろいろなものを得て「貯金」を増やせるチャンスだといえると思います。

菅野：確かに中学生はそういう時期といえますね。「貯金」

という点から考えても、家庭と学校という2つの場をもつことは子どもにとってすごくいいことだと思います。仮に家庭でマイナスの体験をしても、学校で取り戻すチャンスもあり、またその逆の可能性ももてるわけですからね。

加藤：学校現場にいる子どもだけを見て指導するのではなく、家庭も見つつ学校でエネルギーを注ぐという接し方も学校の先生方には必要かもしれないですね。

菅野：そうですね。「学校は家庭の問題には介入できない」と考えるのではなく、子どもの心に大きな影響を与える家庭があり、その背景をもって学校に来ているということまで鑑みた生徒理解が必要だと思います。

加藤：ただ、小学生よりも中学生のほうが、学校での普段の様子から家庭の様子が透けて見えにくい難しさもあります。面談で面と向かって「君の家は…?」とは聞きにくいです。

菅野：そういうときには、KJQの項目についての「回答状況シート」を活用するとよいでしょう。

たとえば、「家の食事は楽しみ」など、口頭では聞きにくい質問も加えており、回答結果から家族に対する意識や家庭の状況を把握することができるように工夫されています。

菅野純
かんの じゅん

〈心の基礎〉教育を学ぶ会 会長。
早稲田大学教授。



加藤陽子
かとう あきこ

『〈心の基礎〉リサーチ』編集長。
十文字学園女子大学准教授。

加藤：学校場面に限定した調査・テストが多い中で、KJQは家庭での様子まで把握できるので活用法も広がりますね。

菅野：子どもの限られた一面ではなく、全人的な子ども像、立体的な子ども像がつかみやすいのがKJQの強みです。先ほど「中学生は小学生より背景が見えにくい」という指摘がありましたが、KJQのデータからは家庭関係のほか、友だちや先生に対する意識なども把握できるので、トータルな子ども像を理解するのに役立つと思います。

「メタ認知」を育てる大切さ

加藤：私の相談室に来ている男の子が「学校より塾がいい」と言ったことがあります。理由を尋ねると、「塾は成績が上がれば皆にはめられるからわかりやすい。だけど学校は『何でコイツが』と思う子がもてはやされて、どうしたらそうなれるのか、全然わからない」と。彼は塾では自分の像が保てているけど、学校では揺れてしまっているわけです。

学校や家庭以外に塾、習い事など、いろいろな活動場所をもつ子がいますが、場ごとの自分を統合できずに混乱して、どれが自分かわからないけれど、とりあえずあつちもこっちも頑張らなくてはと悩み、しんどい思いをしている子も多いのではないかと感じます。

菅野：私がKJQを作ったきっかけに「子どもたちの〈大人心〉を育てたい」という思いがありました。子どもに育てたい〈大人心〉の1つとして「メタ認知」があります。

「メタ認知」とは、ひと言で言えば、一段高い所から俯瞰するような見方です。たとえば、習い事のダンスは頑張っているけれども、学校の成績が良くないと悩んでいる子がいるときです。「ダンスの場で頑張っている。学校の成績は良くないかもしれないけど、どちらも大切な自分なんだ」という見方ができる子に育ってほしいのです。低い所にいるときは「どっちが私なの?」という見方になりがちだけれど、「メタ認知」をもてるようになれば、「良い自分も悪い自分もすべて自分」と自分自身を認められるようになります。

悩みやしんどさから解放されるのではないでしょうか。

加藤：その通りだと思います。「認める」「ほめる」という考え方にはKJQにも生かされていると思いますが、ダメなところもあるけど、こんないいところもあるというふうにトータルで見る、俯瞰して自分を見られるようになることは子どもにとって大切な力ですよね。

菅野：子どもはもちろんですが、学校の先生方にも「メタ認知」は大切だと感じています。

不登校の子がいた場合、学校現場だけで見ていくと「何で来ないんだ」という思いばかりになってしまう。しかし、少し上から俯瞰して、学校以外の場、家庭や相談室などの多様な子どもの姿が見られるようになれば、さまざまな場でその子なりに必死で生きているその子の全体像がわかり、「こんな葛藤をもっているのかな」「あんな一面もあるのだな」と新しい理解や見方も生まれると思うからです。

加藤：大切なのは、「子どもは多面的である」という理解だと思います。子どもには、教室、家庭など、場面ごとに異なる顔があって、今ここからは見えない子どもの姿があるという前提に立つことができれば、別な気づきを得られるかもしれません。

菅野：確かにそうですね。前半でも取り上げた「トータルな子ども像の理解」ということとも関連しますが、どの価値観が良い、悪いという単純な二択ではなく、いろいろな価値観があって、そしてすべてがその子であるという全人的な見方をすることは、特に価値観が多様化していく思春期以降の子どもたちを見ていくときにはいっそう大切になる視点だと思います。

「回答状況シート」とは…?

『KJQマトリックス』の57の質問項目を、学校での先生との関係、学校での友だちとの関係、社会と自分とのかかわり、現在の自分の居場所、自分の未来、自己の力、の7つの分野に分けて、児童・生徒が回答した内容を一覧にしています。

学年	男	女	合計	平均%	標準偏差	N
1年						
2年						
3年						
4年						
5年						
6年						
7年						
8年						
9年						
10年						
11年						
12年						
13年						
14年						
15年						
16年						
17年						
18年						
19年						
20年						
21年						
22年						
23年						
24年						
25年						
26年						
27年						
28年						
29年						
30年						
31年						
32年						
33年						
34年						
35年						
36年						
37年						
38年						
39年						
40年						
41年						
42年						
43年						
44年						
45年						
46年						
47年						
48年						
49年						
50年						
51年						
52年						
53年						
54年						
55年						
56年						
57年						

BOOK GUIDE

研究会のメンバーが学校の先生や生徒におススメしたい本を紹介するコーナーです。
今回は原口和博先生（相模原市立相武台中学校教諭）が紹介します。



『国銅』は、古代というべき奈良時代に、東大寺の大仏建立に携わった人足達を描いた作品である。長門の国で生まれた「国人（くにと）」が、17歳で銅山の鉱夫として働くところから始まる。

銅山での過酷な労働と、先輩や親方から教わる技能。僧から学ぶ漢字や知識。鉱夫仲間とのつながり。異なる労働・異なる文化を持つ人々との出会い。初めての土地・風景への驚き。奈良の都での様々な人ととの縁。そして開眼供養会を得て帰郷するまでが、現代的な感覚で淡々と書かれている。

現代と生活環境は異なるが、人が成長していくために必要な考え方、感じ方、人のかかわり方、こころの持ち方は今と変わらないことを改めて認識させられる。大きなドラマがあるわけではないが、読後に静かな感動が残る。

『水神』は、水不足の村のため日の出から日没まで毎日桶で水を汲む百姓と、私財を投じ命をかけて筑後川に堰を築こうと挑んだ5人の庄屋達の肉声、嘆きや歓喜を描いた作品である。困難に直面しながら村人達が一丸となって工事に挑む姿は感動的である。

『国銅』と同じような作風で読みやすい。

帚木蓬生の時代小説はこの2作だけであるが、生徒にも薦めたい。



国銅 上 下

帚木蓬生著
新潮文庫刊
定価 各662円
2006年3月発行



水神 上 下

帚木蓬生著
新潮文庫刊
定価 各578円
2012年6月発行

私のbeing

リレー
エッセイ
第3回



「こころのエネルギー」を補給する要素として「楽しい体験」がありますが、その一つとして「目的に何もしない」、つまり「being（ただ、いること）」はとても大事です。人は日頃「doing（何かをすること）」から成り立っていますが、それ以外の一見無駄に見える時間も、実は必要なものなのです。このコーナーでは、研究会のメンバーが日頃どのように「何もしないで」こころのエネルギーを注ぎ足しているのか、紹介してもらいます。第3回は、最近インドネシアの民族音楽、ガムランの練習を始めたという、桂川泰典先生（岡山大学専任講師）です。

私のbeingはCDを聴くことです。音楽に限らず、落語や朗読、環境音など、録音された様々な音を楽しめます。

PCやipod（携帯音楽プレイヤー）ではなく、CDというところがミソです。PCなどを使えば、好きな時に、手軽に音を楽しむことができます。しかし、beingで過ごす時は、手軽さよりも一手間を大事にします。CDジャケットを見ながら、ディスクを選ぶ時間も大切なbeingタイムだからです。

「今日は疲れたから静かなピアノ曲を聴こう」と思っていたはずが、最終的に激しいフリージャズを選んでいることがあります。頭が選ぶ音と身体が求める音は、必ずしも一致しないようです。普段は働かされるばかりであり発言権を持っていない身体ですから、こんな時は「しめた！」とばかりに好きな曲を要求してきます。そんな予想外も楽しみながら、頭や耳だけではなく、身体と一緒に音を聴く。約60分の至福のbeingタイムです。

編集後記



今回は「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」の第2回目の研究会の様子を中心に誌面を構成いたしました。本研究会の素晴らしいところは、質問や意見の多いところです。みなさん真剣に子どもたちの顔を思い浮かべながらご発言されているのが、手に取るようにわかります。

（事務局 萩地）

第4号は2014年7月発行予定です。